



Title	Development of a Spiritual Pain Assessment Sheet for Terminal Cancer Patients : Targeting terminal cancer patients admitted to palliative care units in Japan
Author(s)	田村, 恵子
Citation	大阪大学, 2006, 博士論文
Version Type	
URL	https://hdl.handle.net/11094/46183
rights	
Note	著者からインターネット公開の許諾が得られていないため、論文の要旨のみを公開しています。全文のご利用をご希望の場合は、 https://www.library.osaka-u.ac.jp/thesis/#closed 大阪大学の博士論文について ご参照ください 。

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

氏名	たむら けいこ 村 恵 子
博士の専攻分野の名称	博 士 (医 学)
学位記番号	第 20169 号
学位授与年月日	平成 18 年 3 月 24 日
学位授与の要件	学位規則第 4 条第 1 項該当 医学系研究科未来医療開発専攻
学位論文名	Development of a Spiritual Pain Assessment Sheet for Terminal Cancer Patients—Targeting terminal cancer patients admitted to palliative care units in Japan— (終末期がん患者のスピリチュアルペイン・アセスメントシートの開発—わが国における緩和ケア病棟に入院中の終末期がん患者を対象として—)
論文審査委員	(主査) 教授 森本 兼曩 (副査) 教授 的場 梁次 教授 磯 博康

論 文 内 容 の 要 旨

〔 目 的 〕

わが国におけるホスピス・緩和ケアの広がりとともに、スピリチュアルペインとケアに関する論議が高まっている。しかし、現状では定まった日本語訳がないことが表しているように、この語には意味内容の曖昧さやとらえどころなさがみられる。一方、臨床では、共通の概念がないことに戸惑いを感じつつも、WHO（世界保健機構）の定義より、スピリチュアルペインを「生きている意味や目的についての関心や懸念とかかわっていること」に起因した痛みと捉えケアが実践されている。こうした現状に対して、村田久行は、終末期がん患者のスピリチュアルケアを論ずるには、スピリチュアルペインの構造を解明することが重要であるとの考えに立ち、スピリチュアルペインを「自己の存在と意味の消滅から生ずる苦痛」と定義し、その成立と構造を哲学的考察によって解明している*。村田によれば、「終末期がん患者のスピリチュアルペインは、死の接近による自己の存在と意味が消滅する脅威から生じており、それは、時間存在、関係存在、自律存在である人間の将来、他者、自律の喪失から現出する生の無意味、アイデンティティの喪失、無価値などとして解明できる」と論じている。本研究は、村田によるスピリチュアルペインの理論的枠組みに基づきスピリチュアルペイン・アセスメントシートを用いることにより、がん患者のスピリチュアルペインがどのように表出されるのかを明らかにし、アセスメントシートの臨床における活用についての検討を目的とした。

〔 方法ならびに成績 〕

方法

総合病院にある緩和ケア病棟に入院中で、意識障害・認知症・症候性脳転移がなく、30分程度の対話が可能ながん患者であり、研究同意の得られた 10 名を対象とした。スピリチュアル・アセスメントシート（以下、アセスメント

* Murata H. Spiritual pain and its care in patients with terminal cancer : Construction and conceptual framework by philosophical approach. Palliative and Supportive Care. 1 : 15-21. 2003.

シートと略す)は、表に示したように、時間存在7項目、関係存在8項目、自律存在5項目の計20項目よりなる。面接は看護師経験が10年以上で、対象者の受け持ちではない緩和ケア病棟勤務経験7年の看護師がアセスメントシートを対象者に見せながら質問を読み、自由に答えてもらった。対象者の了解を得て面接の内容はテープに録音し逐語録を作成した。また、アセスメントシートの有用性を検討するために、面接直後と終了1週間後にアセスメントシートを用いて尋ねられることの心理的な負担感と心理状態を知るのに役立ったかを調査した。同時に、面接者である看護師の感想も記録した。分析は逐語録から答えを研究者全員で抽出し、その内容を文脈に沿って丁寧に再読し、分析の適切さを確保するよう話し合いを重ねた。

結果

1) アセスメントシートにより表出されたスピリチュアルペインの特徴

スピリチュアルペインとして最も多く表出されたのは、「人の世話になって迷惑をかけて生きていても、申しわけない」であり、次に「何でこんなことになってしまったのか」、「私の人生は何だったのか」と続き、3項目とも自律存在であることに起因する痛みであった。全員が関係存在の次元と自律存在の次元での痛みを感じていた。5名が時間存在の次元での痛みを体験していた。

以上の結果より、全ての次元においてスピリチュアルペインが表出されていたことが確認された。これは先行研究の結果と一致しており、アセスメントシートがスピリチュアルペインの表出を促していると考えられた。

2) アセスメントシートの使用に関する感想

アセスメントシートの使用に関しては、全員が心理的負担になるとは答えておらず、6名が役立ったと答えていることから、対象者は質問により自分の気持ちに気づく機会を得ていることが確認された。看護師の感想から、質問の妥当性、表現の適切性などを検討する必要があるが、アセスメントシートの使用は肯定的に捉えていることが確認された。しかし、質問によっては看護師自身が心理的な動揺や負担を感じていた。このことから、ケア提供者が生や死について学んだり考えたりする機会が必要であると考えられた。

[総 括]

終末期がん患者へのスピリチュアルケアを行うには、患者がどのようなスピリチュアルペインを体験しているかを適切にアセスメントする必要がある。本研究で使用したアセスメントシートは、がん患者のスピリチュアルペインのアセスメントツールとして活用することの可能性が示唆された。

質問項目に関しては、「人の世話になって迷惑をかけて生きていても、申しわけない」などに代表されるように、この問いは関係存在と自律存在の両者による痛みであり、質問の意図との関連性を検討して質問を精選させる必要がある。また、時間存在の痛みの表出が半数であったことから、がん患者の生きたいという思いや死への不安や恐れなどが表出できる質問を設定する必要があると考えられた。

表. スピリチュアルペイン・アセスメントシート

以下は、病気のなかでの患者さんの言葉です。

自分にも思いあたるところがあれば、左側の欄にチェックしてください。

問1. 「こんなこと(治療など)やったってしょうがない」

問2. 「入院は退屈だ」

問3. 「何もすることがない」

問4. 「何をしたらいいのかわからない」

問5. 「何の意味もない」

問6. 「早く楽にしてほしい」

問7. 「早くお迎えが来ないか」

問8. 「死んだら何も残らない」

- 問 9. 「孤独だ。自分ひとり取り残された感じだ」
- 問 10. 「家族がついていてくれるが、ひとりぼっちのように感じる」
- 問 11. 「ひとり天井を見つめていると、生きている実感がない」
- 問 12. 「誰もわかってくれない」
- 問 13. 「死んだら私はどうなるの？どこへ行くの？」
- 問 14. 「こんなことになったのは、バチ（罰）があたったからだ」
- 問 15. 「私の罪は永遠に消えることはない」
- 問 16. 「何でこんなことになってしまったのか」
- 問 17. 「私の人生は何だったのか」
- 問 18. 「人の世話になって迷惑かけて生きていても、申しわけない」
- 問 19. 「自分で自分のことができないのは、もう人間じゃない」
- 問 20. 「何の役にも立たない。生きている価値がない」

論文審査の結果の要旨

わが国におけるホスピス・緩和ケアの広がりとともに、終末期がん患者のスピリチュアルペインとケアに関する論議が高まっているが、定まった日本語訳がないことが表しているように、学問的論議は始まったばかりである。本論文では、村田によるスピリチュアルペインの概念枠組みに基づくスピリチュアルペイン・アセスメントシートを用いて、終末期がん患者が自律存在、関係存在、時間存在に由来する全ての次元で痛みを感じていること、アセスメントシートによる面接が患者に負担を与えずにそれらの痛みの表出を促進していることを示した。さらに、このアセスメントシートの問題点と改善点を明らかにし、臨床における適切なケアのための活用の可能性を示唆した。

現在、わが国ではスピリチュアルペイン・アセスメントシートは開発されておらず、本論文の結果は、アセスメントシートの開発およびスピリチュアルペインに対する構造化した介入方法の開発に寄与するものであると考える。

よって、本論文は、学位の授与に値するものであると認める。